

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1190200673		
法人名	株式会社ふれあい広場		
事業所名	ふれあい多居夢 川口峯		
所在地	埼玉県川口市峯57-7		
自己評価作成日	令和7年2月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネジメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	令和7年4月25日		

## V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない
62 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ひとり一人の有する能力に応じて、無理のない範囲で意欲的に日常生活を楽しく過ごして頂けるよう工夫を取り入れている。不可能、又は困難と思う事でも「どうしたら出来るか？」最後まで諦めずにホーム全体、職員間で常に考え実現できるよう取り組んでいる。  
認知症状が顕著に現れ、周辺症状が強く共同生活が困難な場合や昼夜逆転等で夜間に眠れない場合があつても、ご本人やご家族が希望されない限り、不必要的な精神薬や睡眠導入剤を使用せず、ご本人の生活リズムを大切にし、尚且つご入居者個人の個性と捉え安全に生活が営めるよう支援に努めている。  
地域密着型グループホームとして地域との繋りを大切にし感染予防対策を万全とした上で地域行事にも積極的に参加し外出の機会を大切にしている。一人ひとりの心の声に寄り添ったご支援を介護を通じて提供している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

・職員が同じ方向を向いて業務にあたるために、「愛し愛される」の法人理念の基、介護職としてどうあるべきか認知症ケアについての思いを職員間で共有されている。職員都合ではなく、入居者の気持ちを汲み取り利用者にとっての良いケア正しいケアを実行するため、介護の根柢を職員が共有し日々のケアを実践されており、家族からも信頼が寄せられている。入居者が日常生活を笑顔で過ごせるよう、職員が家族のように接し心休まる「住まい」として暮らしが整えられ、不要な服薬をできるだけ無くし、入居者一人ひとりの生活リズムに合わせたケアがされている。  
・運営推進会議は、家族の参加を促す取り組みをされており、会議では地域の方や家族などと活発な意見交換が行われている。行事報告、事故報告だけでなく、身体拘束の研修や災害対策も議題とされている。  
・目標達成計画については、地域行事へ積極的に参加することで日頃より地域との交流が図られており、避難訓練への参加や災害時の協力体制を築く取り組みが行なわれている。

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目: 9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しづつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働けている (参考項目: 11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない



## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「愛し愛される」法人理念の意味を理解し共感し自施設の理念として掲げ共有し実践している。	「愛し愛される」の法人理念を職員間で共有し、入居者一人ひとりの有する能力を大切に、自分らしく笑顔で生活が続けられるよう支援がなされている。入居者のQOLを高める支援ができるよう、職員からの意見を取り入れた、新しい事業所理念を作成するための準備をされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流が出来るよう情報収集し感染予防対策を徹底しつつ参加し交流の場を提供出来るよう支援している。	建物オーナーや町内会との繋がりから、夏祭りや桜祭りなど地域の行事にお誘いをいただく機会があり、交流が図られている。獅子舞や腹話術、手品、ハープやお琴の演奏会などボランティアを受け入れ、入居者に喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のオレンジカフェ等に参加し娛樂パフォーマンスを提供する形で貢献し地域の方々に楽しんで頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて取り組みなどの報告を行い様々な意見やアドバイスを参考に質の良いサービス提供が出来るよう取り組んでいる。	運営推進会議では、家族の参加を促す取り組みをされ、地域の方や家族などと活発な意見交換が行われている。行事報告、事故報告だけでなく、身体拘束の研修や近隣の河川の状況など災害対策も議題とされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括担当者や介護保険課、生活保護課担当者への相談など行い協力関係を良好に築いている。	事故報告や実地指導の機会を通して関わりを深め、問題を相談したりアドバイスをいただくなど関係性が構築されている。地域包括支援センターのオレンジカフェに参加するなど良好な関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に職員に対し身体拘束適正化の為の研修や虐待防止の為の理解を深める研修を行いご入居者にとって安心安全な心地よい居場所作りに取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会が開催され、人として寄り添うことの大切さを指導し、職員が正しいケアを自ら考えて行う環境が整えられている。夜間に寝ない入居者に対して不要な服薬をせずに、ご自分のペースで過ごしていただく対応がなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	認知症ケアとは何か職員都合のケアにならぬようご入居者中心の生活が営めるよう努めている。又定期的な研修を通じて学び課題を共有し解決策を相談し合っている。		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外 部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員に対して研修を通じ制度の理解を深めている。 成年後見人制度の利用など必要に応じて該当される関係者に説明し活用できるよう支援している。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約の際や制度改定を含む料金改定時など事前に十分な説明を行い理解と承認を頂いている。		
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時だけでなく状況報告やケアプランの見直しなどの際にご要望やご意見等を伺い可能な限り運営に反映させられるよう努力している。	家族との面会時に、管理者が必ず声をかけ日常の様子をお伝えしたうえで、忌憚のないご要望やご意見をいたぐりよう促し運営に活かされている。面会が難しい家族には電話でご要望を伺う機会を持ち、サービス向上に努められている。	
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	上半期下半期に分け個人面談の機会を設けている。必要に応じて本社幹部との面談も実施し働きやすい職場を目指し依ってご入居者への質の高いサービス向上を図っている。	入居者を第一優先に、職員がそれを支える為に何ができるのかを考え、意見交換を行い運営に活かされている。年2回の面談だけでなく日頃から管理者が話を聞く機会を持ち、職員同士も相談しやすい環境が作られている。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	職員ひとり一人に向き合い楽しく職務に従事できるよう取り組んでいる。ラダーベンチマーキング制度を用い個々に目標を定め向上心が持てるよう取り組んでいる。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護職経験の少ない職員や介護技術や知識向上等、定期的な社内研修以外にも外部研修の機会を提供し個々のスキルアップの機会の情報提供を行っている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業他社との交流は再開できていないが、グループ会社内の情報交換や定期的に発行される「ふれあい便り」等でより良いサービス提供のヒントを得られている。		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前の段階からご本人の状況やご家族のご要望を伺い不安無くホームに慣れるよう支援している。サービス開始後も細やかに観察を行い状況を職員や家族と共有し必要に応じて支援内容を見直している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常にご入居者本人に寄り添った支援を中心にサービスの提供を実施している。ご家族の不安やお困り事等に対しても心から向き合い相談しつつ理解を得ながらケア方針を決めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス導入を希望する場合必要に応じて要望に応え導入対応している。状況を観察し見極め家族へ状況を報告し相談しながら支援方法を検討する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の場で有ることの理解を職員へ周知している。個人の尊厳を大切にし役割と生き甲斐有る生活を営めるよう支援しご入居者同士トラブルの無いよう職員が介入し個々の思いを尊重している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染予防に努めホーム面会し易い環境作りに努めている。ご本人の状況を報告し可能な限り家族の協力と理解を得つつ共に支えられる意識構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を得つつ可能な限り継続出来るよう努めている。	獅子舞鑑賞や浴衣を着て夏を楽しむなど、昔馴染みの行事を懐かしむ工夫がされている。家族の協力で習慣にされている本屋へ出かけたり、日課のラジオ体操を継続できるよう支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々のADLや精神状態により状況は異なるがホーム全体の雰囲気が和むよう職員が関わり良い関係作りに努めている。		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて連絡を取り合い家族支援や相談に応じられるよう努めている。退居された後も親戚が入居を希望されたり、親族より入居の紹介を受けた事が有る。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	安全を第一に考え方個人を尊重した暮らし方を大切に支援している。	入居者の生活習慣をアセスメントから把握したり、日常会話や表情から汲み取り、職員の押し付けにならないようなケアが行われている。言語化が難しい場合は、選択肢をいくつか用意し質問をしたり、「願いが叶うなら何がしたい?」と具体的に本音を聞き取る工夫がされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居者本人とのコミュニケーションを大切に本人の思いや希望を把握しご家族や関係者からの情報を参考にしながら把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	細かな変化や日々の状況等を見落とさず全ての職員が情報共有出来るよう努め改善や問題解決出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	短期目標や長期目標を定めている。ご本人にとってより良く暮らす為の課題と向き合いケアプランに反映している。	ケアをするなかで気づいたことを付箋に記入し、個別のノートへ貼り付け情報共有をしたうえで、担当者会議で本人・家族の要望をお聴きしケアプラン作成がなされている。プランを実践し検証と改善の繰り返しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	電子記録に特記事項、自由記述として入力記録している。申送り時に口頭で詳細の情報共有し定期的に開催するフロア会議で話合いケアプランの見直しやケア支援方法を検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の事情やひとり一人の思いやニーズに個別に対応している。生活保護受給入居者が半数在籍しており家族が居ない方や疎遠となっている場合も多い為、関係機関へ相談し協力を得ながら個別対応を行っている。		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域役員、民生委員、広報誌等から地域資源の情報収取に努め可能な限り参加や利用が出来るよう取り組んでいる。状況に依っては個別対応で安全且つ楽しく外出支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療医や訪問看護師との連携にて適切な診療、健康管理、観察を行っている。必要に応じて外部診療を要する場合や専門外来による経過観察や治療も受けられるよう家族と協力し合い支援している。	訪問医と訪問看護師が定期的に往診を行い、変化がみられた際には臨時に診察対応がされ、癌が発見された入居者を医療センターへ繋ぐなど、適切に支援がされている。かかりつけ医の受診は家族だけでなく職員が同行するなど、状況に応じて対応がされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご入居者の急変時以外にも24時間体制で相談や報告体制が整備されており常に日々の関わりの中での気づきや課題を共有し適切且つ迅速な診療や治療が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院治療が必要となった場合家族と協力して病院関係者との情報交換が出来ている。尚、治療が完了した場合ADL低下を極力防ぐ為にも早期に退院出来るよう支援し退院後の生活が安全なる療養である為に退院前カンファレンスにも積極的に参加し関係者内で情報共有し支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方にについて、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化または終末期を迎える前に日々の変化や想定される病状や状況を家族へ相談を含めて報告をしている。段階を経て主治医や看護師、家族を交えてホーム責任者との三者でインフォームドコンセントを行い家族の意向やご本人の思いや希望に寄り添った支援を行っている。	重度化した場合は、医師より状況説明や指針を明示し、身体的・精神的ケアについて家族・医師・事業所で話し合いを行い、家族の意向を確認したうえで、意書を交わし支援が行われている。本人・家族に寄り添う心や、後悔の無いような看取りへの支援が職員で共有されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けています	高齢者の疾病や基本的な知識は研修の機会を用いて学んでいます。想定される応急的初期対応時に動搖せず適切に報告連絡相談対応が出来るようマニュアルを整備している。実践力を備える為の定期的な訓練は課題である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	上半期と下半期2度に分けBCP総合訓練や水害を想定した垂直避難訓練と夜間想定訓練を実施している。地域の防災訓練にも参加しホームの存在を知って頂き協力し合える体制を築く事も課題である。	年2回、消防署と連携しBCPを基本とした訓練を実施し、昇降機や自動通報装置の作動確認がされている。訓練に参加出来なかった職員にはレジュメ事録で共有され、e-ラーニングで研修、報告書の提出を義務付け、平準化が図られている。	災害発生時は、職員だけの対応では限界があると想定され、地域の協力が不可欠であることから、地域の避難訓練に参加しお互い情報交換をしながら、協力体制を築く取り組みに期待します。

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員ひとり一人が尊厳を大切にしプライバシーに配慮した対応を心掛けている。	入居者の意思を尊重し、無理強いせずに入浴や排泄のタイミングを図ってケアをされている。個々の生活習慣を大切にし、起床や就寝は自由にしているいただき、レクに参加したくない方は居室で過ごされるなど、本人の思いが尊重されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表現や自己決定出来る方に対しては可能な限り希望に寄り添えるよう支援している。表現や思いを言葉にする事が困難な状況にある方への対応は表情や背景など置かれている状況などを観察し視線を追いながら希望に添えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や外出可能な時間帯等ある程度一日のスケジュールは決められているが職員の価値観や職員都合の支援業務とならないようご本人の体調や気分に寄り添った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の価値観に否定的にならず共感し褒めることによって一瞬でも心地よく身だしなみやお洒落に关心を抱けるよう言葉かけに配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り無理なく配膳や後片付けの手伝い等の役割を持つよう支援している。食事が楽しみなものとなるような配慮は雰囲気つくりを大切にしている。	食器洗いや食器拭き、盛り付けなどを手伝いいただき、入居者が役割を持つことで食に关心を持つ工夫がされている。行事の際には寿司の出前を取ったり、レクでプリンアラモードを作ったり、職員の案で駄菓子屋さんを開催するなど、入居者が食を楽しむ取り組みがなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常食以外にソフト食やミキサー食、トロミ剤を使用し安全に経口摂取できるよう支援している。決められた時間以外にも個別対応を行い栄養や水分摂取が不足しないよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立度が高く口腔ケアが可能な方に対しても職員が介入し口腔内の状態や磨き残しや傷などの有無をさり気なく確認している。介助が必要な方へは適切な口腔洗浄用具を使用し支援している。		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外 部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意便意のある方に対しては待たせる事を避け速やかにトイレが利用できるよう支援し表現が困難または不可能な方への支援は定時誘導を行っている。又その日の体調や便通状況に応じて定時誘導以外にも誘導しトイレでの排泄が可能な支援を行っている。	個々の排泄パターンを把握し、様子を見ながら快適に排泄が出来るよう自立支援がなされている。安易にオムツに頼らず、声かけ誘導を配慮し、オムツ使用を減らす工夫がされている。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼らず自然排便が可能となるように水分不足にならない配慮や楽しく参加できる運動や体操に参加出来るよう工夫している。		
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわず、個々にそった支援をしている	安全を第一に夜間帯での入浴は出来ないが可能な限りご本人の希望で入浴出来るよう支援している。共同で生活する場であることを説明し理解や承諾を求める場合もある。	無理強いすることなく、洗体など出来ることは行っていただき難いことはお手伝いをし、ご本人のペースで入浴を楽しんでいただく支援がされている。技術向上の為、職員同士で研修を実施し、入浴を快適に楽しんでいただく為の工夫が行われている。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人が希望しない限り就寝薬に睡眠導入剤は使用せずご本人のペースで過ごして頂いている。無理に消灯時間を設けず寄り添っている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている内服薬の必要性や副作用に関し必ず確認している。疑問に感じたり内容の見直しについても主治医や薬剤師に質問し相談を行っている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コミュニケーションの会話の中や過去の生活歴の情報から興味や楽しみを模索し楽しみや喜びを感じられるよう努めている。		
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	計画的に個別対応にて安全に外出や買い物などに出かけられるよう努めている。ご本人の希望が遠方の場合はご家族に相談しご本人の意向を伝えどうすれば叶えられるか協同し支援している。	日常的に散歩へ出かけ、近くの公園で地域の方と交流をしたり、花見などのイベントでの外出を楽しめている。近くのショッピングセンターまで徒歩で買物へ出かけ、果物やおやつを購入し清算を行っていただくことで、自分で選ぶ楽しみへの支援がされている。	

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外 部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでは金銭の所持は特別な理由を除き遠慮して頂いている。ご入居者同士でのトラブルや窒息事故等の事故回避の為。金銭管理は家族や代理人にて行って頂き、原則ホームでは重要事項説明書に記載通り金銭管理は行わない。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の所持に制限は無く自由に連絡が出来る環境に有る。器機の管理は行っていない。手紙を書いたり投函を含め、希望に応じ支援している。		
52 (19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じる様な手作りの装飾や居心地の良い音楽をBGM的に流している。あらゆる雑音は排除し清潔な明るい空間で安心安全に過ごせるよう環境整備に配慮している。	BGMに耳障りの良い季節の童謡などが流れ、入居者が自然に集まり、ゲームやお喋りを楽しめている。桜や藤の花など、季節の飾りを職員と入居者で制作し華やかに飾り付けられている。清掃を入居者が手伝う様子も見られ清潔に保たれ居心地の良い空間作りがされている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有フロアにはベンチ型のソファーがテレビの前に設置されている。食卓テーブル席以外にも好きな場所で過ごせるように工夫している。		
54 (20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ家具の持ち込みやご先祖の位牌や遺影、仏具を持参されている方も居られる。ホーム内は火気の持ち込み使用は出来ない為火を扱うライターやマッチお線香やロウソクの使用は禁止している。	居室担当の職員が関わり、入居者が整理整頓できるよう支援がなされ、リネン交換時に一緒に清掃する方もおられる。慣れ親しんだ家具や仏壇を持ち込まれ、好みのゴルフ場の写真、家族写真や千羽鶴を飾り、本がお好きな方は読書を楽しむ、居心地の良い居室となっている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	可能な限り個々の能力を生かした支援を心掛けている。安全に行う事が優先であり見守りや職員と一緒に見えるよう支援している。		

(別紙4(2))

事業所名:ふれあい多居夢川口峯

## 目標達成計画

作成日: 令和 7年 6月 6日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かつたり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなるよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	「利用者は戸外の行きたいところへ出かけている。」 現状では職員が支援することで1/3程度のご入居者が外出を楽しめているが身体的事情により外出困難な方への外出支援が実現できていない。	歩行困難なご入居者であっても家族への説明を行い協力を得て福祉用具を安全且つ適切に活用し職員が関わることで日常的に外気浴を楽しんだり、地域交流の機会を増やし参加して頂き楽しみを増やしたい。	天候の良い時は、短時間であってもホームの戸外に出て外気浴を行い徐々に距離や外出先を増やし地域交流の場への参加が出来るよう職員同士で如何したら出来るかを話し合い実現に向けて計画的に取り組む。	3ヶ月
2	35	○災害対策「地域との協力体制を築いている」定められた法廷研修や訓練は積極的に取り組んでいるが地域の防災訓練への参加が出来ていない(地域内における防災訓練計画がない)訓練計画が無いが地域との関りを増やし災害発生時等で協力体制を築く取り組みを考える。	災害時での避難や救助活動は職員だけでは限界がある為、日頃から地域の方々との交流出来る取り組みを考える。峯町内会での防災避難訓練が行われていない為、地域の消防団への協力を求め近隣住民者との防災訓練を実現する。	近隣施設との合同防災訓練などの計画や協力を求めたり近所の方々との良好な関係を築く。要介護者が暮らしている介護施設の存在を知って頂けるよう地域の行事にも積極的に参加出来るよう情報を収集しご入居者とともに参加する。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5				川口市 介護保険課 7.6.16 受付	ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

(別紙4(3))

## サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

### 【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】

実施段階		取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)
1	サービス評価の事前準備	<input type="checkbox"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="checkbox"/> ②利用者へサービス評価について説明した
		<input type="checkbox"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		<input type="checkbox"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		<input type="checkbox"/> ⑤その他( )
2	自己評価の実施	<input type="checkbox"/> ①自己評価を職員全員が実施した
		<input type="checkbox"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="checkbox"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="checkbox"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		<input type="checkbox"/> ⑤その他( )
3	外部評価(訪問調査当日)	<input type="checkbox"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="checkbox"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="checkbox"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="checkbox"/> ④その他( )
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="checkbox"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="checkbox"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="checkbox"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		<input type="checkbox"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="checkbox"/> ⑤その他( )
5	サービス評価の活用	<input type="checkbox"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		<input type="checkbox"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		<input type="checkbox"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		<input type="checkbox"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
		<input type="checkbox"/> ⑤その他( )